

授業も中学復習も、「フォローアップ配信」で、生徒が100%理解するまで学び切る習慣づくりを

東海大学付属諏訪高校（長野・私立）

テーマ ▶ フォローアップ配信

目的 ▶ 理解できるまで繰り返し、自学自走できる生徒を育てたい

スタディサプリ活用法

生徒の「デジタル親和性」を高めるために、時間的な猶予を与え、提出率や取組率を上げる



スタディサプリ活用の目的の一つは、生徒のデジタル親和性（デジタル教材に慣れる）の向上だと考えています。これは教員にも言えることです。デジタル親和性が向上すれば、提出率や取組率は上がるので、今年度の学び直しに関しては、「期末テストまでにやってね」と、取り組み期間を2カ月くらい与えています。毎日コツコツ勉強する生徒もいれば、短期集中型もいるので、急がせないことが大切です。ただし、学期の終わりに未提出の場合は、強制的な居残りもさせています。今後はテスト前学習や、部活動の遠征中の学習課題としても活用していきたいですね（1年生英語・山田 秀先生）。

は上がるので、今年度の学び直しに関しては、「期末テストまでにやってね」と、取り組み期間を2カ月くらい与えています。毎日コツコツ勉強する生徒もいれば、短期集中型もいるので、急がせないことが大切です。ただし、学期の終わりに未提出の場合は、強制的な居残りもさせています。今後はテスト前学習や、部活動の遠征中の学習課題としても活用していきたいですね（1年生英語・山田 秀先生）。

授業前の事前学習に動画配信。
授業後にフォローアップ配信。
今後も継続的に活用したい



発展的な内容を理解するためには基礎知識の習得が重要です。スタディサプリの動画視聴と確認テストを反転授業として活用し、理解が乏しい場合は、フォローアップ配信で繰り返し事前学習をさせることで、授業の理解度は高まります。さらに授業終了後は、正答率が100%になることを提出完了の条件としてフォローアップ配信をしていけば、生徒たちの力は確実に上がります。授業前の予習に動画配信＋復習の課題配信を継続的に行っていきたいですね（1年生社会・横井宏典先生）。

学習をさせることで、授業の理解度は高まります。さらに授業終了後は、正答率が100%になることを提出完了の条件としてフォローアップ配信をしていけば、生徒たちの力は確実に上がります。授業前の予習に動画配信＋復習の課題配信を継続的に行っていきたいですね（1年生社会・横井宏典先生）。

フォローアップ配信を活用して
正答率100%を目指すことで、
生徒たちの力がついた



ワンランク上の受験をしたい「Sコース」の生徒の中には、数学がすごく好きで、スタディサプリを使って楽しみながら勉強している生徒も多いので、「ここは重要な単元だから覚えておいてね」「次のテストに出るから勉強しよう」とフォローアップ配信をすると、ちゃんと勉強をしてくれます。正答率が100%になるまで、何回も挑戦しているうちに知識が身につくので、テストの点も上がってきたと思います。自学する生徒が増えてきた印象がありますね（1年生数学・松元咲里南先生）。

取材・文／丸山佳子

課題

タブレット導入を機に
中学の学び直しを強化し、
自学の習慣づくりをしたい！

東海大学への進学を目指す「総合進学コース」、国公立大学などを目指す「Sコース」がある普通科と、理数科がある東海大学付属諏訪高校。ICT導入のための環境整備は2017年と早く、スタディサプリも当時から放課後部活の「進学探究会」で活用してきた。「進学探究会」の目的は、自学自走できる生徒の育成です。参加者は理数科やSコースの生徒を中心に70〜80名ほど。授業後の7時間目にスタディサプリのベーシックレベルで英数国の復習をし、8時間目はハイレベルの課題に挑戦しています。基礎力がある生徒は伸びますが、問題は、中学校の既習範囲を理解できていない生徒たち。当校でも、ここ数年は学び直しが課題になってきました。22年度は全校生徒へのタブレット導入が決まったので、予習復習に使えるスタディサ

活用

学び直しや週末課題も、
正答率100%になるまで
フォローアップ配信

導入したスタディサプリを活用し、この1年で、最も成果が上がったのは、中学英語の学び直しだったという。「ここ数年、当校では中学の既習範囲を完全に理解できていない1年生が約8割でした。そこで、スタディサプリの中学2、3年生の講座から、比較的取り組みやすいリスニングや文法、関係代名詞などの学び直しをしたところ、中学の既習範囲が理解できていない生徒が6割にまで軽減されました。私のクラスでは、長期休暇に学び直しや授業の復習課題も配信していたので、ほかのクラスよりも実力診断テストの成績もかなり高くなりました。スタディサプリのフォローアップ配信機能を使うと、課題未提出の生徒や正答率が低い生徒に繰り返し課題を

プリの全校導入を決めました」と情報管理室長の武藤 健先生。

配信してくれるので、生徒たちは理解できるまで学び続けられる。教員もプリントする手間などが省けるので、楽ですね」と英語の山田 秀先生。

反転授業や定期試験前の繰り返し学習で成果を上げたケースもある。

「『地球環境問題』や『地球的課題とSDGs』などの重要なテーマは、生徒が関心をもち、深く理解できるように、予習としてスタディサプリの動画を活用し、授業後は正答率が100%になるまでフォローアップ配信を活用しました。定期試験で、これらの範囲は非常に点数が高かったことから、繰り返し学習の効果を実感しています」と、社会の横井宏典先生。数学の松元咲里南先生も、「重要な単元は、定期試験前に生徒全員の正答率が100%になるまでフォローアップ配信を行うと、試験の点数が上がりやす」と話す。



情報管理室長
武藤 健先生(数学)

School Data

創立1963年／普通科・理数科
(男女) 生徒数926人(男子
513人、女子413人) 進路状況
(2022年3月実績) 大学211人、
短大18人、専門学校等58人、就
職13人、その他10人